

# ご挨拶

日本バルカー工業株式会社  
代表取締役社長 兼 CEO

瀧澤 利一



謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

読者の皆さまには日頃より本誌をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。

去年は主要各国において指導者の交替があり、世界の枠組みが大きく変化することを予感させる年となりました。経済についても、欧州各国の債務危機が長期化の様相を呈する中、世界経済を牽引してきた中国やインドなど新興国の景気の減速など、不透明感が続いています。わが国においても、円高、デフレ傾向は続き、経済も3四半期ぶりにマイナス成長に転じるなど、景気が後退局面に入ったとみられています。

しかしながら、このような先行き不透明な情勢下であるからこそ、企業は自らの戦略に拍車をかけ、更なる成長への挑戦を強化しなければならないと考えています。バルカーグループは、予てよりグローバル展開を加速しつつ新たな成長分野への積極的な展開を図ってきており、昨年7月には韓国における初の生産機能となるバルカー코리아・ピョンテック工場を完成させました。半導体分野を中心とする韓国市場のお客さまへの付加価値提供を加速することができるものと確信しています。また、メガソーラー事業への取組み、シリコンウエハーのリサイクルビジネス、LED照明業務など、環境に貢献する企業グループとしての存在価値を高めてまいりたいと考えています。昨年4月よりスタートした中期経営戦略NV・S6においては、グローバル人材の開発育成を推進しつつ、世界で勝ち抜くための製品開発、品質の強化を目指しています。

本誌にも、「生分解性作動油に使用するゴムシール材の選定指針」、「代替フロン用材料EPDM材H0880」など、環境に配慮した開発動向を技術論文として掲載しています。今後も、環境、エネルギー分野など、社会に貢献できる技術開発、製品開発を進めてまいります。お客さまの立場に立った付加価値提供や、環境に配慮した技術をご紹介することにより、豊かな暮らしと産業の発展に貢献していきたいと考えます。社名の由来であり、また理念でもある「価値の創造と品質の向上」を追求し、お客さまに感動いただける製品を提供し続け、社会に貢献するグローバル企業たるべく邁進する所存であります。なお一層のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

読者の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。